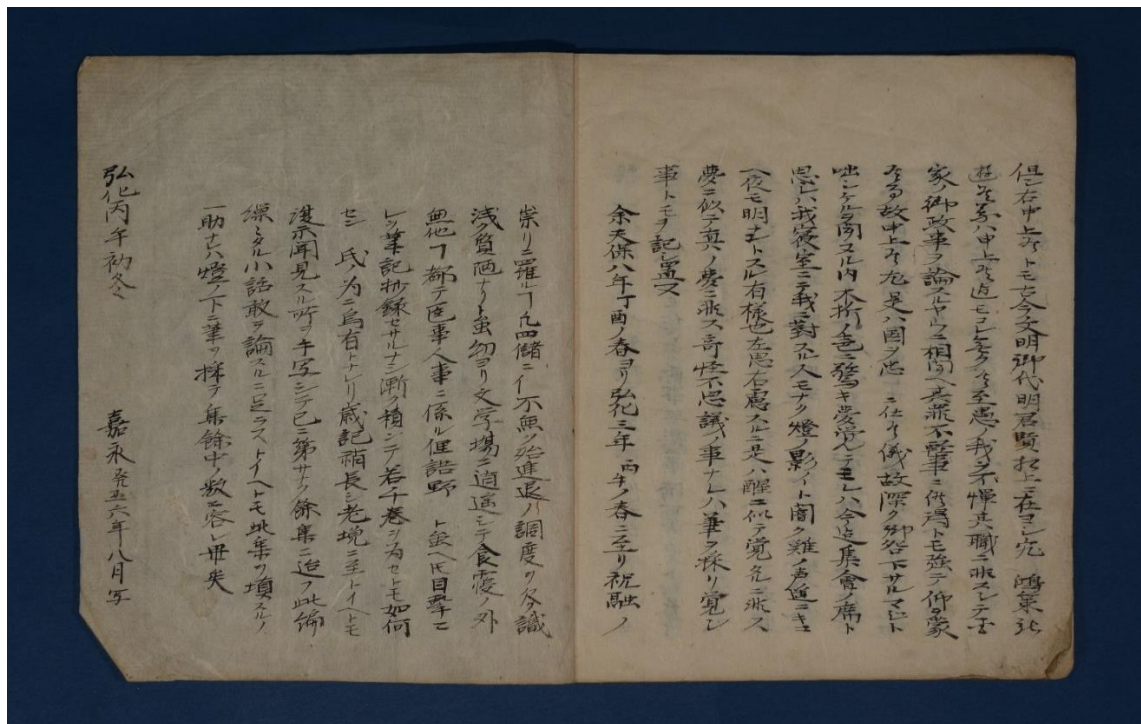


8月の資料紹介



高野長英著 夢物語(写本)

『夢物語』は、日本漂流民を乗せて渡来したアメリカ船モリソン号をめぐる幕府の対外政策を批判した長英の著作です。

長英は、イギリスの国力について具体的なデータをあげて説明し、同国の勢力が日本近海の島々におよんでいる事実を明らかにしました。そして、モリソン号が漂流民の送還を口実に人道の名をかかげて渡来した場合、これに打払いをもってのぞめば、日本は国民を大切にしない野蛮で人道的でない国と思われてしまうだろう、と打払いに反対し、モリソン号の入港を認め、漂流民を受け取った上で交易の要求は拒絶すべきであると主張しました。

このような長英の意見が問答方式で記されており、夢の中の集会で見聞した話という体裁をとることで幕政批判の罪を逃れようとしたましたが、夢物語は写本としてかなり世間に広まり、社会的反響を呼びました。

これが原因となり、長英は蛮社の獄で幕府に捕らえられ、永牢の身となり、小伝馬町の百姓牢に入れられました。なお、『慎機論』を著した渡辺華山も同様の罪で捕らえられ、国元に蟄居を命ぜられました。